

平成30年度 政策企画部 重点目標

	重点事項	成果目標（注）
1	<p>【新計画の策定】</p> <p>府民とともに、新たな京都府の将来像を描き、夢のある計画を策定します。</p>	<p>これまでの「明日の京都」や「府民満足最大化・京都力結集プラン」における成果を踏まえつつ、府民とともに、新たな京都府の将来像を描き、夢のある計画を策定します。</p> <p>【新たな基本計画の策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年秋頃の新しい計画案の策定に向け、今年度は、これまでの計画の成果や課題、今後の社会情勢を分析した上で、様々な分野の専門家の方、次代を担う若手人材や、地域で様々な活動に従事する方など、できるだけ多くの府民の方々の声を丁寧に聞く機会を設け、骨子案としてとりまとめます。 <p>【新行革プランの策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 府民満足最大化・京都力結集プランの最終年度を迎え、これまでの取組の成果を踏まえた上で、今後の課題の抽出を行い、歳入確保や職員のスキルアップなど生産性向上に資する取組を強化するとともに、施策の新陳代謝を促し持続可能で機動的な財政構造を確立する新たな行財政改革プランを策定します。
2	<p>【文化庁の全面的移転】</p> <p>国と緊密に連携しつつ、オール京都で早期の全面的な文化庁京都移転の実現に取り組みます。</p>	<p>府・市・商工会議所などオール京都体制により、国と、受け入れ条件等詳細について協議を加速するとともに、早期の全面的な文化庁移転に向け、ハード整備を含めた取組を進めます。</p> <p>【新行政棟・文化庁移転施設整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遅くとも平成 33 年度中の文化庁移転を目指して、総務部とともに、新行政棟建設及び文化庁移転に向けた現京都府警察本部本館改修に係る基本・実施設計を着実に実施します。 ・ 国との負担割合や、京都市、京都商工会議所との役割分担を早期に決定できるよう調整します。 <p>【文化庁京都移転の機運醸成活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市、京都商工会議所と連携して、新しい文化行政に係るアイデアコンテストの実施やシンポジウムの開催等を通じて文化庁移転の意義・効果等を内外に発信し、府民、国民の理解増進に努めます。

（注）目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標が適当な場合は、数値目標を記載する。

平成30年度 政策企画部 重点目標

	重点事項	成果目標（注）
3	<p>【府庁働き方改革の推進】</p> <p>職員がいきいきと働き、府民満足度を高める府庁経営を実践します。</p>	<p>ICT活用等による業務改革、職員が助け合う組織風土づくりなどの働き方改革に取り組み、一人ひとりがよりいきいきと活躍できる環境づくりを推進します。（職員長Gと連携）</p> <p>【ICT改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI、RPA、クラウド等、最新のICTを活用した業務生産性の向上を図ります。 ・現場主義の徹底のため、モバイル環境の活用を新たに10業務拡大します。 <p>【業務プロセス改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の見える化を通じ、業務プロセスの課題抽出や業務改善手法の検討を行い、効率化及び省力化、自動化を府庁全体へ展開します。 ・会議ルール（資料の事前配付、出席者の制限、到達目標の設定、所要時間の設定等）の周知徹底を図るとともに、協議用資料の削減など紙資料を前提とした仕事の進め方を見直します。 <p style="text-align: center;">＜全庁の紙使用量を対平成28年度比10%削減（環境部と連携）＞</p> <p>【意識改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客本位、価値前提、職員重視の発想を組織に浸透させます。 <p>【推進体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属長、アセッサー、IT推進員が一体となって、働き方改革（一所属一改善運動等）を推進します。 ・アセッサーが若手職員のベンチャーグループ等との連携により、働き方改革の優良事例を府庁全体で共有します。（京カグランプリ開催、けいひんだよりの拡充（各部局の取組紹介等））

（注）目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標が適当な場合は、数値目標を記載する。